

取り組みのシナリオ集

加美町の未来をつくる22の取り組みを紹介

巻末では、景観まちづくりの具体的な取り組みとして第2章で説明した「取り組みのシナリオ」の詳細を紹介しています。これらはワークショップに参加した住民の皆さんのアイデアが形になったもので、「なりわい」「暮らし」「自然」「担い手」の4つに区分されています。また、ワークショップでは、中新田・小野田・宮崎と地域ごとにアイデアが提案されましたが、プランでは他の地域での応用にも触れています。なお、ワークショップの内容については、「加美町景観だより第6号」をご覧ください。

「なりわい」	シナリオ 01 地域資源を活かしたにぎわいの景観	中新田	「自然」	シナリオ 16 自然とのふれあいづくり	中新田
	シナリオ 02 観光の拠点づくり			シナリオ 17 日曜しぜん探検隊	小野田
	シナリオ 03 まちのなりわい発信局	小野田		シナリオ 18 四季を体験する自然学校	宮崎
	シナリオ 04 加工体験を通じた食育のすすめ		「担い手」	シナリオ 19 高校生が集うお店づくり	中新田
	シナリオ 05 里山暮らしPR委員会	宮崎		シナリオ 20 学生発のユニークなPR活動	中新田
	シナリオ 06 市民農園による宮崎のファンづくり			シナリオ 21 人や資源が循環する「贈り物トラック」	小野田
「暮らし」	シナリオ 07 外出を促す休憩処づくり			シナリオ 22 学生を呼び込む田舎暮らし体験	宮崎
	シナリオ 08 蔵を拠点とした食文化の伝承	中新田	どんな人が、いつ、どこで、 どのような方法でまちづくりに 取り組めるのか、といった様々なアイデアが まとめられています。 それに対して行政ができるサポート案も 提示されています。 		
	シナリオ 09 まちの名人発掘				
	シナリオ 10 多世代が集う伝承の場づくり	小野田			
	シナリオ 11 ペットとともに訪れるまちへ				
	シナリオ 12 地域を巡るにぎわいづくり				
	シナリオ 13 宮崎文化祭	宮崎			
	シナリオ 14 空き家を活用した芸術家の拠点づくり				
	シナリオ 15 子育て世代の環境づくり				

『加美町協働の景観まちづくりプラン』を読むには？

今号では、『加美町協働の景観まちづくりプラン』の内容の一部を紹介しましたが、このプランは加美町公式ホームページでご覧になれます。また、PDF データでダウンロードすることもできますので、ぜひご活用ください。

なお、現在このプランをよりわかりやすく、読みやすい形にした「まちづくりブック（小冊子版）」を作成しています。こちらについては、完成しましたら加美町公式ホームページにてお知らせしますので、もうしばらくお待ちください。

【発行】加美町 協働のまちづくり推進課 TEL:0229(63)3215 MAIL:kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp

【加美町 HP】<http://www.town.kami.miyagi.jp/>

【Facebook】<http://www.facebook.com/kamimachi.keikan.100>



※「加美町協働の景観まちづくりプラン」の表紙です。このイラストは、このプランで目指す加美町の姿をイメージしたものです。

『加美町協働の景観まちづくりプラン』について

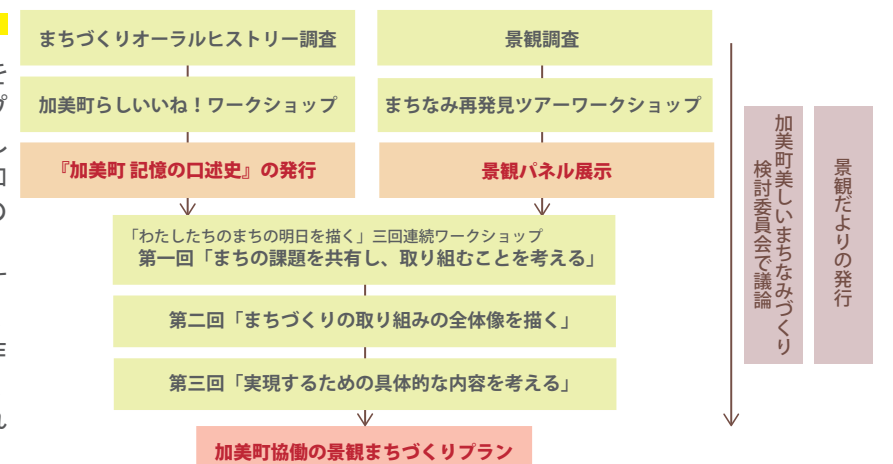
加美町では、住民のみなさんが「この町に住んで良かった」と誇れるような町を目指して、豊かな自然に恵まれた加美町らしいまちなみを形成するために、平成24年度から「美しいまちなみづくり100年運動」に取り組んでいます。その成果として、『加美町協働の景観まちづくりプラン』が完成しました。

本計画では、住民や地域コミュニティ、行政等が共通の認識を持ち、協働によって加美町らしい景観を守り育てる活動に積極的に取り組んでいくため、加美町が目指す景観まちづくりの方向性や、その目指すべき姿に向けての取り組み等をまとめています。今号では、その内容を簡単にご紹介します。

策定までの流れ

加美町では、早稲田大学後藤研究室の協力を得ながら、これまで様々な調査やワークショップを行ってきました。前号の景観だよりでご紹介したように、オーラルヒストリー調査の結果は『加美町記憶の口述史』として発行し、景観調査の結果は景観パネルとして展示してきました。

これらを踏まえたうえで、住民等12名で構成する美しいまちなみづくり検討委員会で議論を重ね、『加美町協働の景観まちづくりプラン』の素案を作成しました。この素案は住民のみなさんに公開し、パブリックコメントや試読会でご意見を集め、これらを反映させたものがこのたび完成しました。



『加美町協働の景観まちづくりプラン』の内容紹介

『加美町協働の景観まちづくりプラン』は、第1章「加美町を知る」、第2章「加美町の未来を描こう」、第3章「シナリオの実現に向けて」の全三章で構成されています。

第1章 加美町を知る

第1章は、まちづくりオーラルヒストリー調査や景観調査、ワークショップの結果をもとに、加美町の景観資源や課題等を示すものです。

加美町の景観の良さ、特徴と歴史を紹介

加美町の景観の美しさや特徴と歴史を、写真やスケッチを用いながら紹介しています。また、現在の景観の紹介と並行して、過去の様子についての語りも紹介しており、加美町の現在と過去の良さを知ることができます。



加美町の景観の課題と、その背後にある問題を整理

加美町の景観の良いところを紹介する一方で、まちの様々な問題・要因が目に見える風景に影響を与えていることをまとめています。

	社会の変化	風景の課題
なりわいの課題	生活の変化 就業構造の変化	人通りの少ない商店街 シャッター通り
	農業の変化 住環境の変化	耕作放棄地の増加 伝統的な造りをした建築が減少
	産業構造の変化	観光客が回遊しない観光地
暮らしの課題	車の普及 建設技術の発達 過疎化	歯抜けの商店街 統一感のないまちなみ 危険老朽空き家
	高齢化 少子化	暮らしの知恵と技の喪失 若者の姿が見えにくいまち
自然の課題	生活の変化	人の手入れが行き届かない自然

第2章 加美町の未来を描こう

第2章は、総合計画のまちづくりの基本理念をもとに、資源調査やワークショップの結果を踏まえて作成した「景観まちづくりの基本理念」と「4つの目標と地域ごとの方針」、「取り組みのシナリオ」を示すものです。取り組みのシナリオは、ワークショップに参加していただいた方々が、目標と方針をもとにどのような取り組みができるかアイデアを出して作成したものです（全22のシナリオ）。また、これらのシナリオが達成されていくことでできる加美町の未来のイメージ（姿）を、「いくつもの加美町」として描いています。

景観まちづくりの基本理念と目標の整理

加美町では、各地域のなりわいや暮らし、歴史・文化といった生活の営みを感じることができ、自然と共生する加美町らしい景観を守り育て未来に引き継いでいくため、基本理念を以下のように定めています。

自然と共生し、人々のなりわいと暮らしが見える加美町らしい景観

景観まちづくりの基本理念を実現するために、ワークショップの結果を踏まえて「なりわい」「暮らし」「自然」「担い手」に関する4つの目標とその目標の中での地域ごとの方針を以下のように定めています。

なりわい | 目標1：町内の魅力を発信していけるまち

方針	中新田 観光・交流を通じたにぎわいの創出 小野田 地域で学び、伝え合う環境の促進 宮崎 農業を中心とした新しい価値の創造
----	--

暮らし | 目標2：多世代交流に支えられ住み続けられるまち

方針	中新田 文化・娯楽を通じた交流の促進 小野田 多世代が集う場を通じた交流の促進 宮崎 趣味の活動を通じた交流の促進
----	---

自然 | 目標3：自然の中で遊びを教え合うまち

方針	中新田 自然の中で学べる環境の促進 小野田 自然の中の遊びや知恵を伝え合う環境の促進 宮崎 子どもを中心とした自然体験の促進
----	--

担い手 | 目標4：新たな活力を発揮するまち

方針	中新田 学生を中心とした地域の情報発信 小野田 町の魅力が循環する仕組みの創出 宮崎 町外の人々との体験交流の促進
----	---

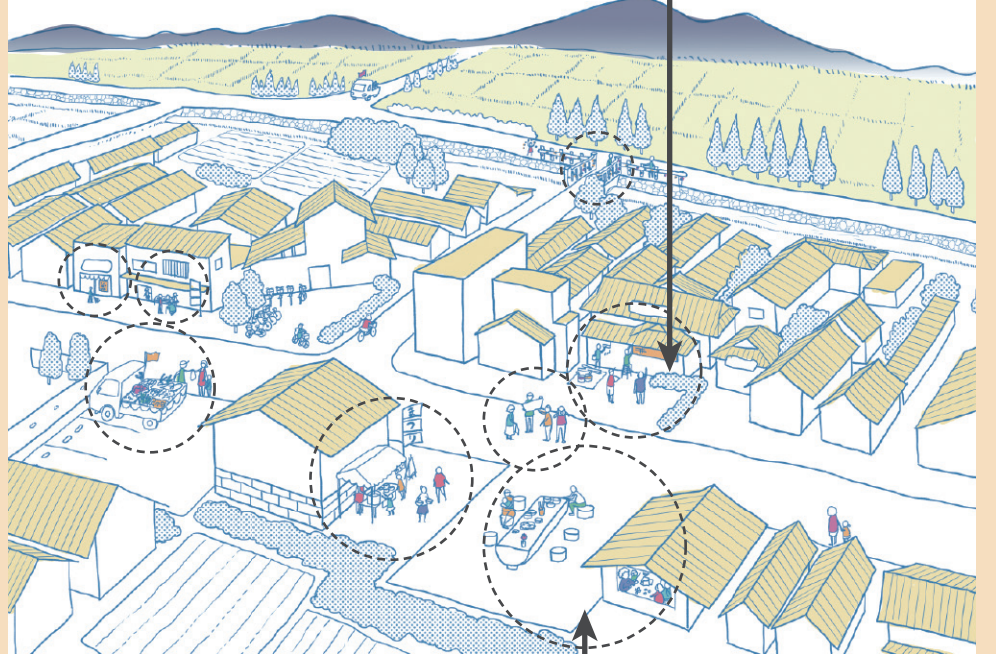
様々な取り組みのアイデアと、達成したときの未来のまちの姿

「取り組みのシナリオ」の概要と、それらのシナリオに住民と行政の協働によって取り組むことでまちの課題が解決されたとき、景観がどのように変わるのかを描いています。下の図でその一部を紹介します。

観光の拠点づくり ～「なりわい」のシナリオ～

使われていない建物や土地が再利用されることで、生まれ変わった商店街の景観となります。そして、観光拠点で食事やお土産の販売がされることで、地域の人と観光客でにぎわいのある景観が復活します。

新しいまちの魅力を創造・発信する場



外出を促す休憩処づくり ～「暮らし」のシナリオ～

病院や店舗、公共施設など用事のあるところにしか外出しなかった高齢者が休憩処に集い、お茶や話を楽しむことで、高齢者の笑顔あふれる景観や、イベントなどで子どもとの世代間交流のある景観が生まれます。

第3章 シナリオの実現に向けて

第3章は、加美町の景観を知り、住民と行政等の協働による景観まちづくりをどのように実現していくか、今後の実施体制等について示すものです。

景観まちづくりにおける住民の協力の必要性

景観まちづくりの基礎となる「加美町協働の景観まちづくりプラン」の共有を、以下の流れで行っていきます。

- ①加美町の「景観」の資源とは何かを考える
- ②身のまわりにある問題がまちの風景に影響を与えていることを知る
- ③加美町らしい景観を考え、価値観を共有する

取り組みを実現するためには、具体的な仕組みやサポートが必要になり、その中で住民のみなさんの協力が不可欠です。住民一人ひとりが景観まちづくりの中では重要な役割を担うということを自覚していきます。

住民と行政の「協働」の景観まちづくりの実現へ

加美町では、これから景観まちづくりに参加してくださる住民のみなさんを募集していきます。様々な問題意識や興味・関心を持った方々が集まり、できることから取り組んでいくことで、柔軟で創造性のある自立的なまちづくりを目指します。住民のみなさんは、以下のような関わり方ができます。

- ①取り組み全体を管理する委員会の委員として参加
- ②取り組みのシナリオの実現に向けた活動への参加
- ③新しいシナリオの提案

住民のみなさんが様々な形で関わり、行政もそれらの取り組みを支援する「協働」の形をとって景観まちづくりを進めていく予定です。